

本巣市 地震防災マップ 根尾地域版

地震防災マップの目的

平成23年3月11日に「東北地方太平洋沖地震」が発生し、東北地方の太平洋側に大きな被害をもたらしました。

この地方においても、南海トラフを震源とする地震が今後30年以内に70%程度の確率で発生すると予想されているほか、養老・桑名・四日市断層をはじめとした活断層が多く存在することから、いつ大きな地震が発生してもおかしくない状況となっています。

本巣市では、このような地震が発生した場合に備え、日頃から地震に対する備えを心がけていたいとともに、地震による被害を最小限に抑えることを目的として、「地震防災マップ」を作成しました。

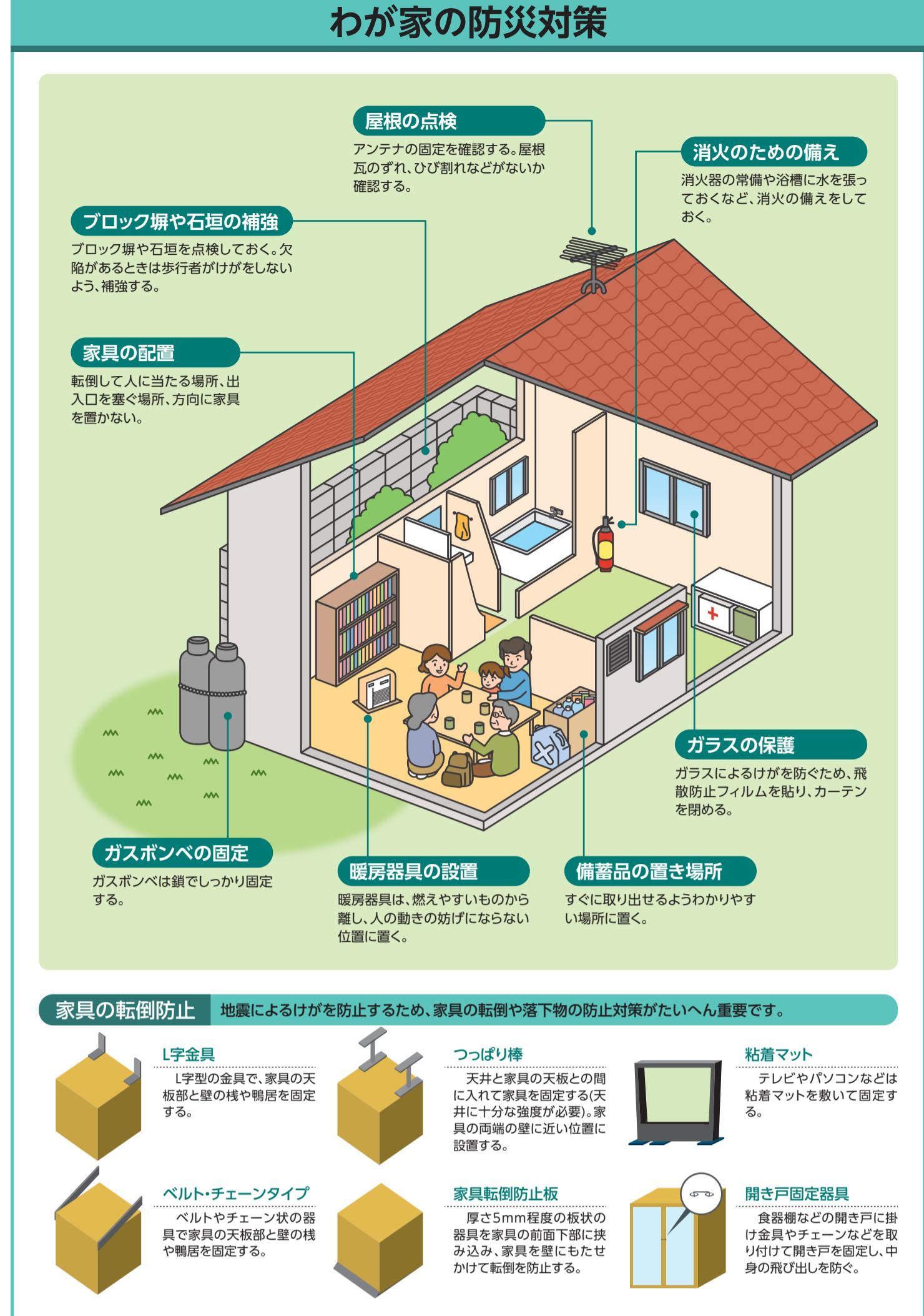
「地震防災マップ」は、この地方で発生する可能性のある地震による被害を予測し、その被害の発生範囲及び被害程度の情報を地図に示すとともに、地震に関する知識や防災対策などを記載したものです。

もしもの地震災害に備え、この「地震防災マップ」を活用し、自宅における地震対策、避難する場所や避難時の心得など、日頃から家族や地域の皆さんで話し合いましょう。

問い合わせ先

本巣市役所総務課 TEL:0581-34-5020 FAX:0581-34-5034

平成27年3月作成



避難情報の周知

避難情報は、次のような方法で発表されます。

- 防災行政無線
- 広報車
- 本巣市ホームページ
- 緊急速報メール
- 民間の放送

大規模な地震が起きた場合、市から様々な方法で情報を発信します。また、テレビ、ラジオ、インターネットから「今何が起こって、自分がどのよう状況に置かれているのか」という情報を集め、冷静に次の行動に移ることが大切です。

*災害情報の緊急速報メールサービスを受けるには登録が必要です。
●NTTドコモ https://www.nttdocomo.com/japan/safety/alert/index.html
●KDDI https://www.kddi.com/business/mobile/solution/kinkyusokuho/
●KDDIau https://www.kddi.com/business/mobile/solution/kinkyusokuho/

耐震診断・耐震改修

平成7年の阪神・淡路大震災では、亡くなつた方の約8割が建物の倒壊等による圧死や窒息死でした。そのため、本巣市では、地震に対する建物の安全性の向上を図り、地震に強いまちづくりを進めますため、次の事業を実施しています。

木造住宅の耐震診断

木造住宅耐震相談士が耐震診断を実施し、診断に基づく概算の耐震補強工事に関する情報提供等を無料で行います。

無料耐震診断を受けることができる方
・昭和56年5月31以前に着工された木造の一戸建て住宅を所有する方

木造住宅以外の耐震診断

木造住宅以外の建築物の耐震診断にかかる費用の一部を予算の範囲内で補助します。

耐震診断の補助を受けることができる方
・昭和56年5月31以前に着工された木造住宅以外を所有する方

耐震改修

木造住宅の耐震改修工事を実施するにあたり、予算の範囲内において費用の一部を補助します。(限度を超える費用については自己負担になります。)

対象となる耐震改修工事
・昭和56年5月31以前に着工された木造の一戸建て住宅であること
・岐阜県木造住宅耐震相談士により設計及び工事監理されるものであること
・その他、本巣市建築物等耐震化促進事業補助金交付要綱によるものであること

耐震改修の補助を受けることができる方
・対象となる住宅を所有する方

補助金額 耐震改修費用の7/10以内(費用により限度額があります。)

申し込み方法など詳しい内容につきましては、
本巣市都市計画課(企画分庁舎) ☎058-323-7758 までお問い合わせください。

地震発生のメカニズム

地震とは

日本周辺の地震には、海溝型地震と活断層型地震の2種類があり、これらの地震は発生のメカニズムが異なります。

海溝型地震

海側のプレートが陸側プレートの下にもぐりこむことで、境界にひびきのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときに、断層面を揺らして、地震が起こります。規模が大きい海溝型地震が海洋の下で発生した場合、津波が発生することがあります。古くは「関東地震」、「東南海地震」、最近では「まだ記憶に新しい東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)」がこの海溝型地震にあたります。

活断層型地震

地下の岩盤に、押し合う力や引っ張りあが力が加わることでずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときに、ある断層面を揺らして、地震が起こります。古くは「濃尾地震」、比較的最近では「兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)」がこの活断層型地震にあたります。

南海トラフを震源とした巨大地震

南海トラフの巨大地震

南海トラフでは、過去1400年間を見ると、約100~200年の間隔で蓄積されたひずみを開放する大地震が発生しています。直近の昭和東南海地震および昭和南海地震が起きてから、すでに70年近くが経過しています。最近では、南海トラフをこれまでのような東海・東南海・南海領域という区分をせずに、南海トラフ全体を1つの領域として考えるようになってきています。

過去に起きた年

年	南海地震	東南海地震	東海地震
1498年			明応地震(M8.4)
1605年			107年
1707年			102年
1854年	安政南海地震(M8.4)	安政東海地震(M8.4)	宝永地震(M8.4)
1944年	92年	昭和南海地震(M8.0)	147年
1946年	1946年	昭和東海地震(M8.0)	90年
1946年	69年		空白期間
2015年			161年

南海トラフ

地震防災マップの利用方法

地震などが起きてあわてないように、家族会議を開き、日頃から防災対策について次のようなことを話し合っておきましょう。

- 災害から身を守る方法
- 家族の集合場所、緊急連絡先、連絡方法
- 非常時持ち出し品と非常用備蓄品の点検・置き場所の確認
- 自宅と避難場所の位置
- 避難経路の確認

わが家の防災メモ

避難所	災害時避難場所	家族が離れ離れた時の集合場所
氏名	電話番号	住所

災害用伝言ダイヤル 171

家族間や知人など、安否の確認連絡に活用できます。ご利用にあたっての事前契約等は一切不要です。

自分の「固定電話」の番号(市外局番から)
1 7 1 → 1 (XXXX)-XX-XXXX → 伝言を入れる
音声による案内が流れます。
被災地の方は自分の電話番号、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番から入力してください。

録音方法
1 7 1 → 1 (XXXX)-XX-XXXX → 伝言を入れる
1メモセカンドあたり30秒以内

再生方法
1 7 1 → 2 (XXXX)-XX-XXXX → 伝言を聞く
音声による案内が流れます。
被災地の方は自分の電話番号、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番から入力してください。

利用可能な端末はNTTの一般電話、公衆電話からご利用できます。携帯電話やPHSからのご利用については、お客様がご契約されている各通信事業者へご確認をお願いします。
録音された伝言は被災地の方の電話番号を知っているすべての人間が聞ることができます。
録音番号(任意の数字4桁)により、他人に聞かれないように伝言録音・再生もできます。

携帯電話会社における緊急時伝言サービスについて
携帯電話会社各社とも独自に災害用伝言サービスを行っています。詳細に関してはご利用の携帯電話会社まで問い合わせください。

災害の備え

非常時持ち出し品

- 生活用品
- タオル
- 洗面用具
- 衣類・下着類
- 給水用ボリタンク
- はさみ
- ビニール袋
- ナイフ
- 軍手
- 底の厚い靴
- 生理用品
- おむつ
- 哺乳びん
- 貴重品
- 現金(10円玉)
- 運賃免許証
- 住民票の写し
- 印鑑・通帳
- 権利証書
- 健康保険証
- 母子手帳
- 障害者手帳

非常用備蓄品

- 救急医療品
- 傷薬・包帯・絆創膏
- 常備薬・持病薬
- 湿布
- マスク
- 体温計
- 飲料水(1日1人3リットル)
- かんぱん
- レトルト食品
- インスタントラーメン
- 粉ミルク
- 缶詰
- 缶切り
- 紙皿などの食器類
- 備品関係
- ヘルメット・防災グッズ
- ホイッスル(笛)
- 携帯ラジオ
- 懐中電灯
- 使い捨てカイロ
- ライター・マッチ
- 雨具
- 乾電池
- 包装用ラップ

緊急地震速報

緊急地震速報は、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到着時刻や震度を予測し、知らせます。テレビやラジオの放送やメールで知らせます。

強い揺れの前に自らの身を守りましょう。

地震の際は、P波と呼ばれる小さな揺れのあと、S波と呼ばれる大きな揺れが来ます。緊急地震速報は、このP波をとらえ、地震の規模や震源地を、このS波が来る数秒前から数秒後で予測し、大きな揺れがあると予測された地域が気象庁から発表されます。

地震発生時の行動

地震が起きたとき、あわてず冷静に行動することで、けがや火災など二次災害から身を守ることができます。普段からどのような行動をとったらいよか考えておきましょう。

避難準備と周囲の確認

地震発生!!

あわてない
・立ち去り行動する
身を守る
・丈夫な所の下に入る
・倒れても身や下物に注意する
・座布団などで頭を守る

お店や乗り物の中にいる場合
・係員、乗務員の指示に従う
・つり革や手すりにしっかりと
・運転席にエレベーターを使用しない
・エレベーターの中に入らぬ限り止させて
・天井荷物棚からの落物に注意する

運転中は
・キーをかけたまま道路の端に車をとめて避難する

野外では
・ブロック塀や門柱の倒壊に注意する
・ガラスや看板の落し、切れて垂れ下がった電線に注意する

家族の安全と初動処置

スリッパ・靴等を履く
家中でもガラス片だけがをすることがある

出口を確保する
・地震のときは、ドアや窓が変形して開かなくなることがある

家族の安全確認
・大声で家族の安否の確認を行う

すばやく火の始末
・ガスやストーブの火を消す
・火災は消火器等で消す

土砂灾害等に注意する
・山間部の地域で地滑れを感じたら、すぐに避難する

テレビ・ラジオの災害情報を確認
・テレビ・ラジオで正しい情報を入手する

閉じ込められたら
・大声を出して外部に知らせる
・手元のものを聞いて、大きな音で外部に知らせる
・笛を吹いて知らせる

状況に応じて冷静に判断

自宅に留まる場合
・家の被害を点検する
・足の骨折に対する対応
・備蓄品で生活する

避難場所へ行く場合
・ガスの元栓を閉め、ブレーカーを切る
・非常時持ち出し品を持つ
・行き先を玄関付近の人に知らせる
・車やオートバイは使いずに徒歩で避難する
・なるべく危険な場所を避けて大きな通りを遠ざける

備蓄品で生活する

数日間はライフラインが停止するので、最低3日分の食料・飲料水などを準備しておきましょう。

避難所での生活
・ルームにから生活協力する
・避難所は被災者が生活する場所であり、運営が基本です。少しの間隔でも確保できる状況になることもあります。
・大声を出して外部に知らせる
・手元のものを聞いて、大きな音で外部に知らせる
・笛を吹いて知らせる

主な活断層の概略位置図

主要な活断層

主要な活断層名	断層が構成する主要な断層	ブリードマーク	発生確率(30年以内)
①濃尾断層帯	温見断層(北西部)	6.8 程度	ほぼ0%
	温見断層(南東部)	7.0 程度	不明
	主部(根尾谷断層帯)	7.3 程度	ほぼ0%
	主部(梅原断層)	7.4 程度	ほぼ0%
	主部(三田洞断層帯)	7.0 程度	不明
②養老・桑名・四日市断層帯	揖斐川断層	7.1 程度	不明
	武儀川断層	7.3 程度	不明
③高山・大原断層帯	国府断層	8.0 程度	ほぼ0%~0.7%
	高山断層	7.2 程度	ほぼ0%~5%
	猪之鼻断層	7.6 程度	0.7%
④阿寺断層帯	主部(北部)	6.9 程度	6%~11%
	主部(南部)	7.8 程度	ほぼ0%
	佐見断層	7.2 程度	不明
	白山断層	7.3 程度	不明
	長良川上流断層帯	7.3 程度	不明
濃尾地震	濃尾地震	6m	不明

主な活断層の概略位置図